

第9回角間川流域協議会 議事要旨

平成17年8月2日(火) 19:00~21:05

場所：北信合同庁舎 講堂 構成員会員 会員数33名のうち出席者23名  
構成員行政 5名全員出席

- |   |   |              |
|---|---|--------------|
| 1 | 開会  | 事務局          |
| 2 | 挨拶  | 座長           |
| 3 | 第8回協議会要旨等の説明<br>(第9回の資料 - 1、2)                      | 事務局          |
| 4 | 議事  |              |
|   | (1) 中野市水源調査報告に対する質疑<br>(第8回の資料 - 4)<br>(第9回の資料 - 3) | 中野市<br>北信保健所 |
|   | (2) 第8回の資料 - 3の説明・質疑                                | 中野建設事務所      |
|   | (3) 構成員からの質問事項について<br>(第9回の資料 - 2、資料 - 4)           | 中野建設事務所      |
| 5 | 閉会  | 事務局          |

**座長挨拶**

- ・ 6月15日に県内の9の流域協議会の座長が集まって開催された、座長意見交換会の報告をしたい。

基本高水の協議会開催の意見交換会が松本合庁で行われ、9の流域協議会の座長(黒沢川のみ座長代理)が出席した。県で高水研究会(当時)を設置したいという話の中での意見交換会であった。鎌田治水利水対策推進チームリーダーから目的等の挨拶があった。挨拶の内容は、

『高水研究会については、各河川個別の高水の検討はしない、現在の高水を上げる下げるの議論の場ではないとし、多様な視点からの検討研究を行う場としている。研究会から答申のようなものを出すことはない。』また、質問の中で「今まで、各河川が進めている治水工事は、この高水協議会と関係なく進める。」との回答があった。

- ・ 会の中で私から 3 点意見をした。  
「検討、研究」という文言となっているが、当日の資料では、基本高水流量の再検証の場を作るとあったが、20 名程度の素人で再検証は出来ないのではないか。  
また、砥川、上川のように諏訪湖に流入し、流量調整をして下流に流しているような河川と、志賀高原から急流で千曲川に流入する角間川と併せて検証するのは納得いかない。  
二番目に、過去の水害の資料を県でよく出してほしい。協議会でも話があったが、25 年の穂波温泉流出は人災であるという話があった。また、33 年の竹原の家屋流出、電鉄の鉄橋を流出も、流量が少なくても災害があった。流量だけでなく、過去の災害を考慮して、治水安全度をよく考慮して研究してもらいたい。  
三番目に、H16 年 10 月台風で浅川が氾濫した際、柳沢も被害があった。千曲川が暫定断面ということもあるが、浅川だけ改修しても下流は被害を受ける。  
こういう事から、一河川の話ではなく、その河川全体、流域下流まで見た検証をしてもらいたい。という意見を申し上げた。その後再検証という文言は無くなっている。
- ・ 8 月 10 日までに会員参加の募集があったが、参加する場合は角間川流域協議会の代表でなく、個人、会員として、責任を持って参加してほしい。

## 第 8 回議事要旨等（第 9 回資料 1，2）に対する質疑

### 1（会員）

『構成員からの質問事項』のパラペットの項目 20 について。余裕高が上がるわけではないと答えられている。県の説明の中で、パラペットは結果として切れて凹凸となると言うが、素人にもわかるように、パラペットは水害を防げるという説明をしてほしい。  
前回、私から、いかに矛盾があるか説明したので、明確な回答をしてほしい。

### （建設事務所）

説明しているのは、今の断面では、1 / 100 確率の流量は流せるが、余裕高が不足するため、余裕高の部分でパラペットを必要としている。もう少しわかりやすくということなので、できるだけわかりやすい説明を検討したい。前回で説明した以上の方法を考えたい。

## 中野市水道水源調査報告（第8回資料4）及び 昭和47年調査（第9回資料4）に対する質疑

### 1（会員）

- ・ 昭和47年の調査結果について水質分析の水質結果表は参考になる。  
前から中野市の地下水はヒ素があるということだが、昭和47年の調査には、ヒ素について載っていないがヒ素の量はわかるか。

### （北信保健所）

水質結果表にヒ素が載っていないのは、本当のところは判らないが、この調査が地質の観点から見た調査で、飲料水の観点からの調査でないために載っていないと思う。

### 2（会員）

- ・ 昭和47年の調査資料で説明があったが、この資料によると、水が出ないように報告がある。図-24の地下水の揚水規模を見ると、中野市で調査した地点は、揚水量が少ない地点になっている。（100～300tの地域、もしくは1000～2000tの地域）。

電気探査の結果を見ても、元々取れないと想定される所をあえて掘った、との答弁が前回あった。これは水質の話もあるということだったが、図の通り、中野市は扇状地で日量3000t可能な部分がかかなりある。2000～3000tが可能という地域もある。こうした基礎データがあるにもかかわらず、2000tを確保するのが難しいところを掘り、2000tの確保が不可能だという結論は言えないのでは。

県はこの他に昭和49年8月に県として調査をし、そこでも中野市で「300mm口径の深井戸の場合、日量1000～2500tあるいは4000～6000t可能である」となっている。

県の過去のデータを参考に掘った場合、私は水量的には可能と確信している。水質は分からないので今後の問題となるが、中野市の結論で地下水による取水が不可能というのは、短絡的で科学的でない。

### （座長）

昭和47と昨年とでは年数の違いは考慮しなくてよいか。

### （会員）

前回も市議会でも言ったが、過去のデータを知らずに、その所ありきでやっていて、取れないと言う結論は当たらないと思う。過去の調査が100%と思っではないが今後明らかになることと思う。

(中野市)

資料の図 - 24で中野市の横線の部分1000~2000tのエリア、このエリアに今回試掘した箇所が入ってくると思う。

斜線クロスの部分、凡例による一番下の火山岩類からなる部分、この部分は箱山周辺かと思う。黒い点々が2000~3000tの地域。

前回も言ったとおり、市では承知していなかった。詳細な部分や、年数もある。

過去と現在の技術力がどうということとはわからないが、今回の電気探査等が出るであろうと言う箇所を掘って、残念ながら出なかったという結果。状況としてはそういうことです。

(会員)

地図は縮小されていて、はっきりしていない事は承知している。

いずれにしても、曖昧なところではなく、2000~3000tクラスの納得できるころはいくらでもある。その中で調査すべき。

我々も含め皆が納得出来る所を、市当局は調査してほしい。

3 (会員)

- ・ 昭和47の資料と今回の市の調査結果で一番違うことは、昭和47年の調査は広域で中野市の調査は局部的と言うこと。

角間川の利水での答申で、「市町で広域的な水源調査をして、一定量の井戸の水源を活用しながら、その中で総合利水を考えていく」とあった。広域的な調査と言いながら、ごく限られた地点の調査だ。市町の行政の枠を乗り越えてと表現していたが、山ノ内町では水源調査をしなかった。なぜ、市の調査がこの部分だけとなったのか聞きたい。

確かに今回の調査位置であれば水源として一番好都合だが、昭和47年の調査以前から予測できていたことなのではないか。そこに1000万円もかけて調査した。

部会が代替案として、地下水調査をしてみようという中で、市で出したのは、長丘地区の地下水を上げて使用すると余分なお金がかかる。ダムの方が安いという話が突如として出た。それが新聞の一面を飾った。世論操作ではないかと思える。

今回の調査は、やれと言うからやったという感じだ。ダムをやるやらないの話はあるが、ダムをやるやらないという観点で水源調査をやって、現況を把握した上で、市民や色々な人に意見を聴いていくべき。そうでなければ水掛け論となる。最近、県と市でのやり合いは意味がないと感じ始めている。

市川健夫さんの本で「中野市が17市で地下水が一番恵まれている」という記載がある。

市の地下水状況や水質を把握したいので、調査して市民に出していくべき。

(座長)

答申の地下水を調査して、段階的に...という部分だと思う。ただ、壁田から一生水をあげるのがいいかということもあるので、答弁をお願いしたい。

8 : 2 0 再開

(中野市)

中野市、山ノ内町の調査内容が不十分だという意見だが、委員会か部会の現調の時に有力な候補地としてあげられた。

扇状地の下流からあげて長い年月莫大な経費をかけるよりも、部会等の結果を受け可能性のある所を先ず掘ってみた。もっと広域的にと言う話があるが、山ノ内町、竹原地域を含めて、調査させていただいた。

もっと南の方と言う意見もあるが、市も田麦等で井戸を掘っているが、水質に苦慮している。平成12、13年には七瀬地区の井戸で亜硝酸出たりしている。総合的に判断する上で、扇状地の安価な所で調査、試験掘削させていただいた。

(会員)

どこに、どういう風に地下水が存在し、表流水があるという全体像を持ち、その中で水道水、農業用水、その他生活水を使うか、総合的にいくつかの組み合わせがあると思う。

例えば、長丘地区でもし水が確保できるとして、飲料水としてはダメでも、農業用水、一般生活水とかに替えていくとか、色々な組み合わせ考えられる。将来的にはそうしていく必要がある。

市では、新たな調査はしなくても、過去の積み上げで状況把握しているのだろうと思う。そういう状況を私たちにも、資料を出してほしい。

4 (会員)

- ・ 部会で、角間川沿いの南部地域では利水はだめだと結論が出ている。ヒ素で全然だめだし、温泉の水が流れ込んでいる。ここからはむり。

高社山麓は水瓶である。笹川の水利権は笠原と草間ともう一つの3部落で持っている。この水を中野市でどう利用するかだと思う。

農集で終末処理場をつくっている上に、部会で地下ダムつくれと提案した。

建設事務所も消雪のための井戸掘っている、どのくらいの水が出ているか、その水をどう利用するか。

夜間瀬ゴルフ場入口の左側に夜間瀬カンパイの水がある、  
(35mと30m、深さ2.5m) × 2箇所、5,600トンの水が常時たまっている。これをどう利用するか。

為替堰は 奥志賀 樽川 深沢 水のゆずり合いをして利用してきた。

水道行政ですが、特に利水ダム等莫大な金をかけた水道水源には、高い水道料金を支払っている。平均の9倍と言われている。そのために大きな企業は自社で井戸を掘っている。山ノ内町の大手旅館は、自家水源だ。

今後の水道行政をどう持って行くか、どう市民の負担をなくして、良質の水を安く供給出来るかだと思う。水瓶である高社山麓の水をどう使うか。

例えば、建設事務所で持っている井戸の水を、深沢堰に入れて下流でもらう。

十三崖から市街へ落とせば自然流下できる。十分検討する必要がある。

提案します。

(座長)

利水の時考えると言うことにします。

5 (会員)

- 地下水の調査について信濃毎日新聞の5月14日、7月5日の記事。

下伊那郡豊丘村で地下水の硝酸性窒素汚染の進行状況と原因解明の調査。

あづみ野地域で地下水低下、わき水の枯渇により、地下水の取水可能量を調査している。

この地域でもこのような調査をしてもらいたい。

この調査は新たな井戸ではなくて各個人、事業所の既存井戸を使って広域的に実態調査をしたということ。

今回、中野市の調査でエリア内の個人と事業所の井戸の聞き取りを行ったと報告されている。もっと中野市全体で広域的にやってほしい。水質、水位、季節による変化等、全体の状況を把握してほしい

(中野市)

庁内で検討する。

(会員)

豊丘村の方は、県の答申を受けて、県が事業主体となって調査したようだ。

中野でも県でやってもらえれば良いと思うが、県の考え方を聞きたい。

(座長)

県の方でも検討してもらおうということでしょうか。

## 6 ( 会 員 )

- 地下水、井戸で議論しているが、ヒ素以外でも地下水汚染は進んでいる。  
生活用水、飲料水として期待するのはちょっと。もっと他にあるんじゃないかと思う。  
中野市内でも、各企業で井戸掘っているが、水質もだめだし枯れてくるし、多くの量  
くみ上げると他の井戸への影響もある。検討、研究するのは良いがそれよりも他にどう  
か。

八ヶ郷としても大沼池、寒沢堰の水 これらのすばらしい水

私たちの先輩が苦勞して掘った、そういうきれいな水をみんなで使えるよう、もっと  
有効に使うようにもう一度考えなければと思っている。

現在、農業用水は足りなくなっている。

一番水のいる時期6月～9月の4ヶ月、122日(果樹にとっては)

県の試験所で聞いたが、りんご、ぶどう、もも 試験場データで1日5mmの水が必要  
だと出ている。4ヶ月で610mm必要。この4ヶ月の降水量は477mmと出ている。  
差し引くと1反分当たり約133t/日の水がいる。

1haにすると1330t/日となる。

八ヶ郷関係の畑で  $305ha \times 1330t = 40 \sim 50$ 万トンが一日に必要。

現在、日量10万トンの水を米に使っているが、どうしても干ばつ期になると下流へ  
水がいかない。どうしても50万トンからの水が農業用水として必要。

更に山ノ内町公共下水道処理水が3,000～3,500トン放流している。この水の  
希釈水も必要。

このため、ただそこらに井戸掘ってでは、現実問題として難しい。志賀高原あの水を  
有効に使う方策を考えていただく事が必要と考える。

## ( 座 長 )

利水で議論願う。

## 砂防えん堤の除石について

### 1 ( 建設事務所 )

- 第8回の資料 - 3により説明

検討委員会、部会 利水ワーキングの中でも話があり、除石をすることによって貯水  
機能を持たせられないか。除石が可能かどうか検討しました。

先ず規模の大きい角間ダムの除石をする。堆砂しないように貝鐘ダムの除石もするセ  
ットで考える。元々の地形を傷つけないように4万m<sup>3</sup>前後の除石は可能であると思う。  
経済的な検討は今後となる。技術的に可能かどうか検討しました。

## 河床掘削の温泉源、地下水への影響について

### 1（建設事務所）

- ・ 第9回の資料 - 4により説明  
前回河床掘削を行った場合の影響について関係者に意見を聞いたらどうかと言う話がありました。（第9回の資料 - 2 P 6）  
4団体の個人名披露。  
温泉及び地下水に関して、影響あるなし、両方の意見がありました。わからないという人もいました。

### （座長）

- ・ 次回は今回説明の質問意見行って利水問題に入りたい。  
本日は終了 3ヶ月後を目途に日程調整したい。  
終了 9：05